

# 経済情報

## 米銀貸出態度調査（2009 年 4 月）の結果について

連邦準備制度理事会（FRB）の融資担当者調査（3 ヶ月ごとに年 4 回実施、今回は 4 月調査）の結果が発表された。貸出基準を厳しくした銀行の割合が 2 回連続で低下するなど、米銀の貸出態度は限界的に改善の動きが見られるものの、一方で貸出資産の質は年内、一段の劣化が見込まれており、金融正常化にはまだ時間がかかる見通しである。以下、調査結果の概要についてまとめた。

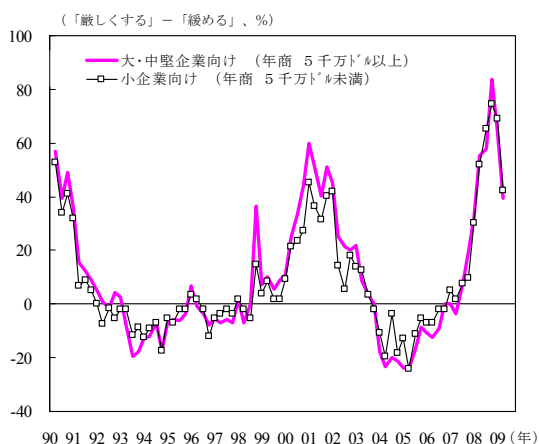
### 1. 企業向け貸出：商工業向け中心に、貸出態度は限界的に改善

#### ① 商工業貸出

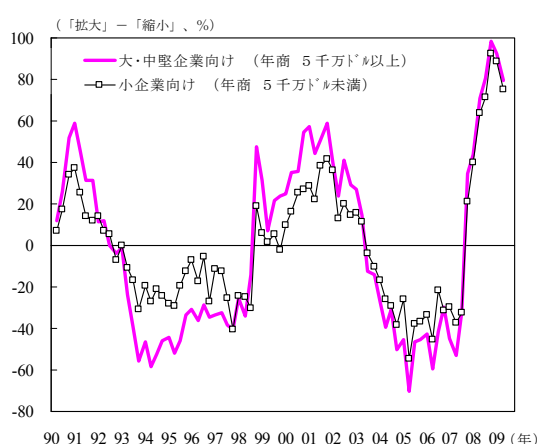
商工業貸出では、3 ヶ月前と比べて貸出態度を「厳しくした」銀行の割合から「緩和した」銀行の割合を引いたネットの比率が、大・中堅企業向けで前回の 64.2%から 39.6%に、小企業向けも 69.2%から 42.3%へ低下した（第 1 図）。依然、4 割前後の銀行が貸出基準を厳格化しているものの、ピークをつけた昨年 10 月調査から 2 回連続で比率が低下し、限界的に改善の動きが見られる。貸出スプレッドを拡大した銀行の比率も低下したが、大・中堅企業向け（92.5%→79.2%）、小企業向け（88.5%→75.0%）ともに、水準は過去のピークを上回ったままである（第 2 図）。貸出基準を厳しくした銀行では、その理由として、ほぼすべての銀行が「経済見通しの悪化、不透明感の高まり」をあげている。足元では、景気悪化のスピードが和らぐ兆しが出ているものの、引続き実体経済の悪化が米銀の貸出姿勢を慎重にさせていることが窺われる。なお、前回、特別調査として実施された「既存のクレジット・ライン（貸出限度額）の運営状況に関する調査」が今回も行われており、過去 3 ヶ月間にクレジット・ラインを減額したと回答した銀行の割合（ネット）が、金融、商工業、クレジット・カードでさらに上昇した。

一方、資金需要については、大幅な落ち込みが続いている。「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率は、大・中堅企業向けで前回調査と同じ▲60.4%、小企業向けでは▲57.7%から▲63.5%へ下がり、調査開始以来の最低を更新した（第3図）。資金需要減少の要因としては、ほぼすべての銀行が設備投資資金需要の減退をあげた他、在庫投資や運転資金、M&A 向けの資金需要の減少があげられている。

第1図：米銀商工業貸出の貸出基準

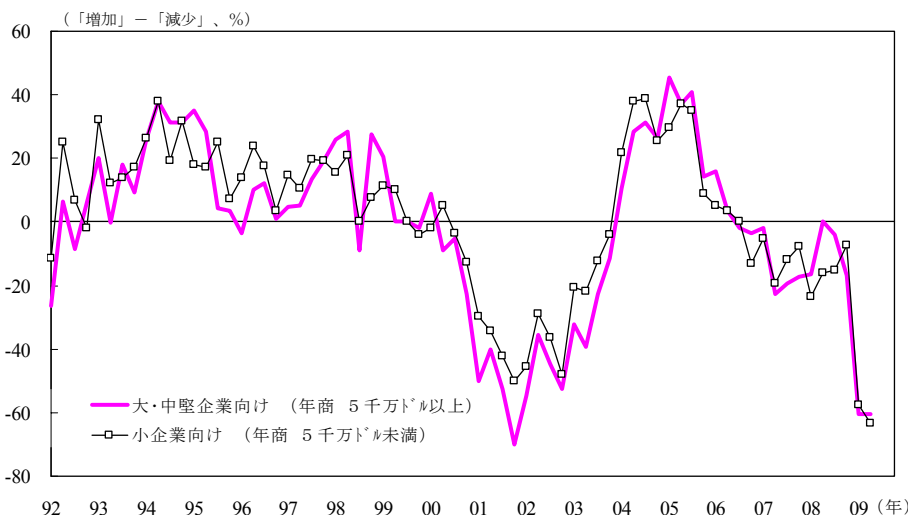


第2図：米銀商工業貸出のスプレッド



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第3図：米銀商工業貸出の資金需要

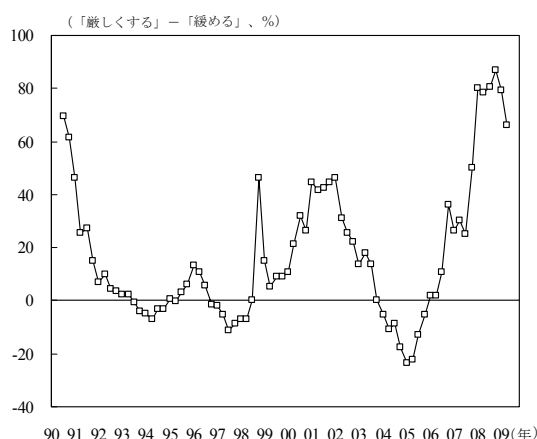


(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

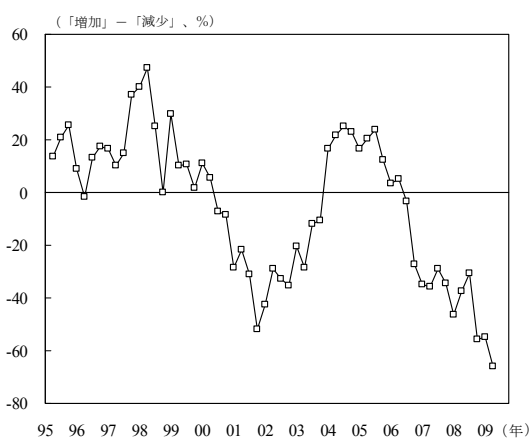
## ② 商業用不動産貸出

商業用不動産貸出でも、貸出態度を厳しくした銀行のネットの比率は前回調査に続いて低下したが（79.2%→66.0%）、商工業貸出と比べると改善の動きは鈍い（第4図）。一方、資金需要は、「増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率が前回の▲54.7%から▲66.0%へと低下し、過去最低を更新した（第5図）。オフィスの空室率が上昇、ショッピングセンターの空き店舗が増えるなど、商業用不動産市場が冷え込んでいることが需要低迷の主因だが、CMBS（商業用不動産ローン担保証券）市場の機能停止も商業用不動産に対する需要減少につながっている。こうした状況を改善するために、FRBは5月1日にCMBSをターム物資産担保証券貸出制度（TALF）の対象担保に加えた。

第4図：商業用不動産貸出の貸出基準



第5図：商業用不動産貸出の資金需要



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

## 2. 個人向け貸出：住宅ローン金利低下や政策効果で資金需要が回復

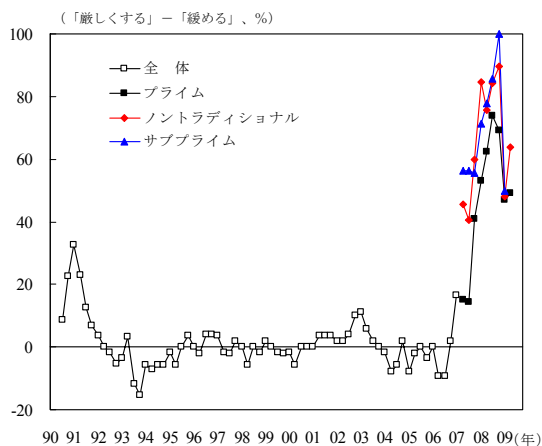
### ① 住宅ローン

住宅ローンの貸出基準は、ピークからは厳格化の動きが和らいでいるものの、直近は足踏み。家計の資金調達環境は厳しいままである。3ヶ月前に比べて貸出態度を「厳しくした」銀行のネットの比率は、信用力の高いプライム向けでほぼ横這い（47.1%→49.0%）、非伝統的な住宅ローン向け<sup>(注)</sup>では厳格化の動きが再び強まった（48.0%→64.0%）。なお、サブプライム向けでは、今回、報告銀行が2行しかなく、集計の対象外となった（第6図）。ホームエクイティ・ローンでは貸出基準の厳格化の動きは若干弱まった（57.7%→50.0%）。

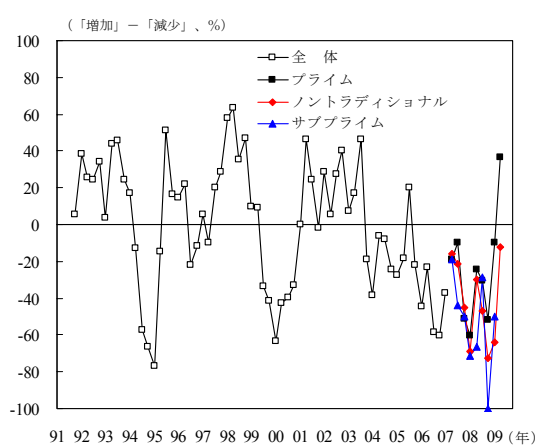
(注) 数年間、元本返済を先送りする「インタレスト・オンリー・ローン」など

一方、資金需要は、住宅ローン金利の低下や政府の住宅対策により目立って回復。特に、プライム向けでは、「資金需要が増加した」との回答比率から「減少した」を引いたネットの比率が▲9.8%→36.7%と 2007 年の現行統計開始以来、初めてプラスに転じた（第7図）。

第6図：住宅ローンの貸出基準



第7図：住宅ローンの資金需要

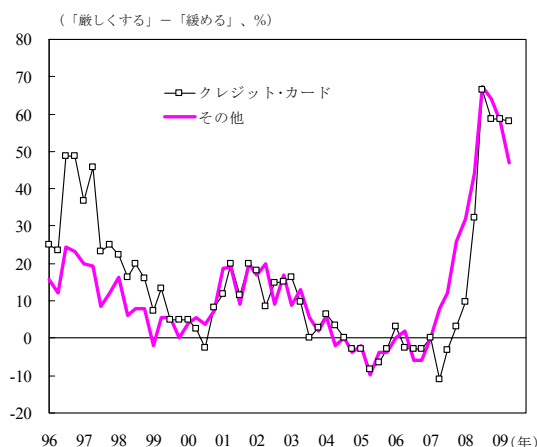


(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

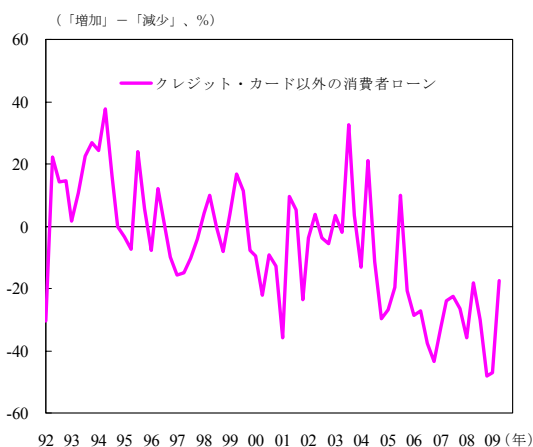
## ② 消費者ローン

消費者ローンでも、貸出基準を厳しくした銀行のネットの比率は高止まりしており、調達環境は厳しいままである（第8図）。特に、クレジット・カードでは、過半の銀行が貸出限度額を引下げるなど、貸出態度を厳格化する動きが根強い。一方、資金需要は、年明け後の個人消費の持ち直しを反映して、前回調査の▲47.1%から▲17.6%へとマイナス幅が縮小した（第9図）。

第8図：消費者向けローンの貸出基準



第9図：消費者向けローンの資金需要



(資料) FRB, Senior Loan Officer Opinion Survey on Bank Lending Practices より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

### 3. 不良債権は年内一段と増加の見通し

今回の調査では、米銀の貸出資産の質に関する特別調査が行われた。それによれば、景気が今後、世の中の平均的な見方通りに推移した場合、大半の銀行が、貸出資産の質が年内に一段と劣化することは避けられないと予想している。特に、商業用不動産や非伝統的な住宅ローン、クレジット・カードでは、ネットで9割を超える銀行が貸出資産の質が劣化すると見ており、商業用不動産では25%の銀行が資産の質が著しく悪化するとしている。

以上の調査結果から、米銀の貸出態度は限界的には改善の動きが見られ、企業・家計の資金調達環境が最悪期を脱しつつあることが窺われる一方、米銀が不良債権処理をよほど加速しない限り、不良債権比率は今後さらに上昇する可能性が高い。米銀の貸出態度も急速な改善は難しく、金融の正常化には時間がかかる見通しである。

(H21.5.7 山中 崇 takashi\_2\_yamanaka@mufg.jp )

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しく申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

発行：株式会社 三菱東京UFJ銀行 経済調査室

〒100-8388 東京都千代田区丸の内 2-7-1